

事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成30年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員20名、理事19名、監事2名、事務局員14名

2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、友情客演指揮者 各1名、指揮者2名、
楽団員72名（平成31年3月末日現在）

ステージマネージャー、パーソネルマネージャー、ライブラリアン 計3名

3. 首席指揮者、名誉音楽監督、友情客演指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し、練習に従事した。

首席指揮者 マティアス・バーメルト 出演回数11回、練習日数13日

名誉音楽監督 尾高忠明 出演回数 6回、練習日数 9日

友情客演指揮者 広上淳一 出演回数 3回、練習日数 5日

指揮者 佐藤俊太郎 出演回数13回、練習日数 9日

指揮者 垣内悠希 出演回数11回、練習日数 6日

交響楽団としての出演回数は合計121回、練習日数119日

この他小編成による教育や福祉関係の活動51回

なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は247日

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演 計42公演

【定期演奏会】

平成30年4月から平成31年3月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、
計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。バーメルトが3回計6公演、尾高が1
回計2公演、広上が1回2公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成30年4月から平成31年3月までに5公演実施予定だったが、9月6日に発生した北海道胆振東部地震の影響で会場のキタラが使用できなくなり、9月8日の公演は中止、4公演の実施となった。

【特別演奏会】

札幌市内で8公演、北海道内地方で9公演、道外では東京で1公演、計18公演実施した。

○札幌市内公演

- | | | |
|------|-----------------------------|------------|
| 1. | 札幌シンフォニック・ブラス | 5月13日 |
| 2. 3 | 札幌ポップス・コンサート Vol.16 (2公演) | 7月11日 |
| 4. 5 | 札幌&アキラさんの大発見+モダンコンサート (2公演) | 8月12日 |
| 6. 7 | 札幌の第9 (2公演) | 12月15日、16日 |
| 8. | 札幌ふきのとうホール演奏会) | 1月8日 |

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は札幌市外、北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成30年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内34公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

- | | | |
|----|-------|-------|
| 1. | 倶知安公演 | 4月15日 |
| 2. | 壮瞥公演 | 7月5日 |
| 3. | 夕張公演 | 7月13日 |
| 4. | 増毛公演 | 7月25日 |
| 5. | 士幌公演 | 7月28日 |
| 6. | 大空公演 | 8月9日 |
| 7. | 小樽公演 | 1月19日 |
| 8. | 苫小牧公演 | 1月20日 |
| 9. | 浦河公演 | 2月25日 |

○東京公演 1月30日

バーメルトの指揮でブラームス「交響曲第2番」ほかを演奏、バーメルトとの初の北海道外の公演は好評を博した。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。(計48回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16回

札幌市芸術文化財団、北海道新聞社、北洋銀行、北海道電力、北海道公立学校教職員互助会、北海道銀行をはじめ多くの団体、企業、自治体の支援を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。(計31回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9回

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により福島県、栃木県、埼玉県での公演を行った。

楽団員によるワークショップ（体験型音楽教室）や楽器講習会では、学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加する感動も広めることができた。（計20回）

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17回

○楽器講習会・・ 3回

（4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1）広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会はじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット販売の促進をするほか、定期会員・パトロン・ジュニア会員の入会案内を行った。また、フェイスブック、ツイッターを用いて随時リハーサル風景、演奏会情報を告知した。

○『札幌交響楽団ものがたりー飛躍から発展へ』

11月3日（土）から3月31日（日）まで、Kitara ギャラリーにて、札幌の歩みをパネル写真や資料で紹介した。

○新聞広告

定期会員募集、公演告知を適時行った。なお定期演奏会開催当日の朝刊1面に『本日開催』を掲出した。

2）その他の公演事業

○アンサンブル（19回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏（12回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3）記録の整理と活用（周年特別会計）

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図っている。平成29年度はPCM方式の音源（VHS、βテープ保存の音源）のデジタルデータ化を図り、平成30年度に完了した。

札幌交響楽団 平成30年度活動報告

令和元年5月7日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<https://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会 計121公演

■ 自主公演(42公演)

定期演奏会(札幌市内) 20公演

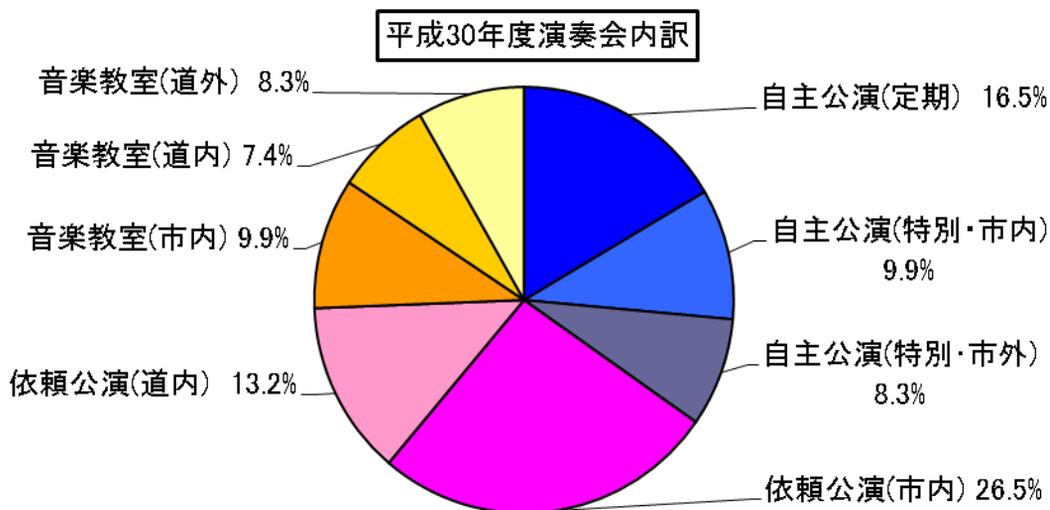
札幌市内 12公演

北海道内 9公演

北海道外 1公演

■ 依頼公演(48公演)

■ 音楽教室(31公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 51公演

総計172公演

自主公演 札幌が主催した演奏会です。

■ 定期演奏会 年20公演

■ 札幌市内公演 年12公演

札幌名曲シリーズ(4公演) ※1公演は中止
札幌シンフォニック・ブラス
アキラさんの大発見コンサート
アキラさんのモダンコンサート
札幌ポップスコンサートvol.16(2公演)
札幌の第9(2公演)
ふきのとうホール演奏会(1公演)

■ 北海道内公演 年9公演

倶知安公演
壮瞥公演
夕張公演
士幌公演
大空公演(アキラさんのモダンコンサート)
増毛公演(萬田記念財団 協賛公演)
札幌ニューイヤーコンサートin小樽
札幌ニューイヤーコンサートin苫小牧
浦河公演

■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2019 (東京・サントリーホール)



4月、新首席指揮者マティアス・バーメルト就任披露となる定期演奏会の「アルプス交響曲」はテレビ放送もあって全国に発信されました。



2013年まで地元主催により開催されていた苫小牧公演を6年ぶりに主催事業として復活開催。地元企業の協賛や、キャラクターとの共演など、演奏会実現にあたり開催地との連携を深めるよう努力しました。

依頼公演

企業、自治体などの依頼で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全32公演

Kitara主催(3公演)、ほくでん、道銀、北洋、友の会、ロジネットジャパン、さぽーとさっぽろ、HBA、北海道信用金庫、999人の第九、JAF、日演連、タナカメディカルグループ、あいプラン、玉置浩ニシンフォニックコンサート(2回)が継続して、また、PMF主催ホストシティオーケストラとしての演奏会が4年ぶりにKitaraを会場に開催されました。

そのほか、企業、学校法人主催によるイベントが2公演ありました。

10月に新たに札幌文化芸術劇場hitaruが開館したことで、オペラ2本(4公演)、バレエ1本(2公演)、コンサート3公演など新たな依頼公演が創出されたほか、開館前トレーニング、HTB主催公演の会場変更など、市内公演の約1/3を占める11公演がhitaruで開催されました。

■ 道内各地の公演

全16公演

北海道新聞社との共催 6公演
(江別、稚内、北広島、釧路、岩見沢、栗山)

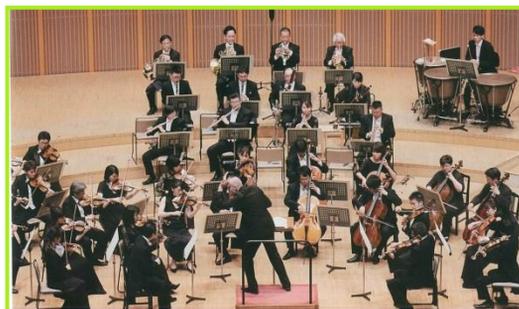
ほくでんファミリーコンサート 5公演
(訓子府、清水、釧路、蘭越、美唄)

北海道公立学校教職員互助会公演 2公演
(広尾、和寒)

北洋銀行コンサート(北斗)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢)

クロネコヤマト音楽宅急便(名寄)



2014年以来4年ぶりとなったPMFでのホストシティオーケストラ演奏会。2019年にも継続開催が決まっています。



hitaruのこけら落とし公演「アイーダ」の大成功は、新しい芸術の拠点の完成とそれにより札幌の今後の活動が拡がることを強く印象づけました。



天候不順となることの多い野外演奏会グリーンコンサートは、この年度も雨天で室内に会場を変更して開催することになりました。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート ／ 広域圏ジュニアクラシック

平成30年度、札幌市主催による札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサート全9公演と札幌市広域圏組合主催による近隣市町小学生を対象とした広域圏ジュニアクラシックコンサート2公演を開催しました。

■ ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成をもとに道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートを、継続している登別、旭川、恵庭、小樽、苫小牧、音更と帯広において実施しました(帯広は2公演。) また、共和町でも久しぶりに開催されました。

Kitaraを会場としたジュニアクラシックコンサートは、札幌広域圏内の高等学校1校の依頼で、実施しました。



↑ 地震から1週間後にも関わらず、実現できた9月13日の音更町ジュニアクラシックコンサート

■ 文化庁主催・文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

平成30年度も文化庁主催により埼玉県、栃木県、福島県内の小中学校の計10校を訪問する巡回公演を行いました。オーケストラ公演の前には、楽団員が訪問して事前学習を行い、子どもたちとの交流の中で興味の喚起や理解の促進に努めました。



教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



小学校を訪れる音楽創造体験プログラムでは、各学校との細かな打ち合わせを行って、子どもたちの音楽への興味を深めるために様々なプログラムを展開しています。



オーケストラ演奏会で道内各地を訪れる機会にあわせ、病院や学校を訪問するなど北海道全域における音楽文化振興にとりくんでいます。



北海道胆振東部地震の震源地に近い3町の4避難所を訪問しコンサートマスターによるミニコンサートをお届けしました新年度には、厚真町にオーケストラで訪問する予定です。



小さな頃から、音楽の楽しさを感じていただきたいとの思いから、札幌コンサートホールKitaraとも連携し、札幌の人気絵本シリーズとコラボした絵本「おばけのマ〜ルとたのしいオーケストラ」を作り上げました。子どもたちに届くよう、札幌市内、北海道内に広く寄贈を行いました。

バーメルト元年、地震、そしてhitaru元年

● 4月 マティアス・バーメルトが首席指揮者に就任

3年の任期を満了したマックス・ポンマーの後任として、マティアス・バーメルトが首席指揮者に就任、4月の定期演奏会と名曲シリーズ演奏会でお披露目を行いました。

スイス出身、アメリカのオーケストラで指揮者としてのキャリアをスタートさせ、世界各地のオーケストラに客演のほか、ヨーロッパの伝統ある音楽祭で監督を務めてきたバーメルトは、その豊かな経験のもと、プログラミングから支援企業への働きかけまでに積極的な取り組みをみせ、札幌の新たなステージへと導く姿勢を明確に示しています。



↑ お披露目となった名曲シリーズはトークをまじえてお客様に語りかけながらの演奏会でした。
← 就任早々、表敬訪問や記者会見など積極的に活動しています。

● 9月 北海道胆振東部地震にともなう公演中止



9月6日に発生した北海道胆振東部地震で、北海道は大きな被害を受けました。

札幌は幸いにして、人的物的損害はありませんでしたが、8日に開催予定だった名曲シリーズ演奏会を中止せざるを得ませんでした。

札幌滞在中の指揮者、客演奏者たちの移動、公演中止の告知、チケットの払い戻しなど、スムーズな対応には、多くの協力をいただきました。

● 10月 hitaruの開館 新たな試み

オペラ公演で開館したhitaruでは、バレエなど舞台芸術に限らず、その音響の良さや立地の良さから、新たな観客層にアピールする演奏会会場としての可能性が感じられる会場でした。

平成30年度は、hitaruと連携した試みとして平日昼間の演奏会が2回開催されました。それらの経験も活用し、今後、札幌交響楽団として様々な取り組みの場にしていきたいと考えています。

